

ワケ カタチには理由がある(1つ)

Shape follows Function
& Taste

〜グロスター・ミーティア(Meteor)F.1 試作型



(↓ E28/39 パイオニア実験機と)



本機ミーティアは、グロスター社が英国初のジェット機として開発した E28/39 パイオニア実験機 (1941 年 5 月初飛行) をステップに、実用ジェット戦闘機として開発された機体で、1943 年 3 月に初飛行しています。模型の機体は、DG205/G というシリアルナンバーが付いている量産型 F.1 の試作型です。なお、最後の”G”はガードが必要な機体という意味で、地上駐機状態では衛兵が付いて監視したようです。それだけ、ジェットエンジンの機密性が高かった時代といえます。実戦配備された英国初のジェット戦闘機ではあるものの、一方で、未だスピットファイアなどの高性能レシプロ戦闘機にパフォーマンスで劣り、専ら V-1 飛行爆弾の追撃任務に使用されました。なお、この機体、昔、英国コスフォードの空軍博物館で実物を見たときにエアインテイクの中を覗くと、主翼前縁(ブリッジ構造材)が見えて疑問に思ったのですが(当時、軸流式のエンジンしか頭になかったので)、ミーティアのエンジンは遠心式で当然ながらタービンファンが正面に見えるはずはありませんでした。

【模型について】

(コスフォードのミーティア/
主翼前縁が覗く(撮影筆者)→)



香港のドラゴン(DML)社の 1/72 キットです。F.1 の特徴(キャノピーやエアブレーキ無の主翼)をおさえており、各部品のモールドもよい感じで、秀作キットでした。また、ドイツの Me262 に次いで(数週間の違いですが)実戦投入された歴史的な機体らしく、ローバー W.2 エンジンもパーツ化されていました。なお、この機体も前輪式でテールヘビーなので、コクピット下に錘をたくさん入れて尻もちを回避しています。

(中川裕幸 2025 年 6 月)